

とある一流ハンターの 日記

フェンリル。

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

新米ハンターが一流ハンターになるまでのお話。

モンスターハンターXをもとに書きました。

感想や評価をお願いします。

目次

新米ハンターここに現る！	1
初クエスト「鬼蛙テツカブラ!!」	4

新米ハンターここに現る！

ここは人とモンスターが暮らす世界。

日々モンスターに生活を脅かされる中で、自分達の生活の安全を確保するため、モンスターを討伐する奴らがいる。

人々は彼らをハンターと呼んだ。

俺は名はミケル。先週18歳になったから、ギルドでハンター登録をしに来てるんだ。

受付嬢『こんにちは。今日はどうされましたか？』

ミケル『今日はハンターの新規登録に来ました！』

受付嬢『新規登録ですね。では、この用紙に氏名と住所、年齢を書いて下さい。』

ミケル『……………よろしく願います。』

受付嬢『ありがとうございます。…………ミケルさんですね。登録完了しました。』

受付嬢『それでは新規登録をされた方へのハンターとしての注意点を話させていただきます。』

ミケル 『はい！お願いします。』

受付嬢 『ハンターは常に危険となり合わせなので命の保証は出来ません。』

受付嬢 『また、給料は日払いで、その日の報酬金の合計で決まります』

受付嬢 『なのでクエストクリアが出来なければ給料は0zです。わかりましたか？』

ミケル 『はい。分かりました。』

受付嬢 『それでは一流のハンターを目指して頑張ってください。』

ミケル 『頑張ります！』

ミケル 『これで俺も念願のハンターだ。．．．でも何すりゃいいのか？』

??? 『ちよつとそこの君！』

ミケル 『えーと、、俺のことですか？』

??? 『そう。君、ミケル君だよね！』

ミケル 『そうですけど、、あなたは誰ですか？というか、何で俺の名前を知ってるん

ですか？』

??? 『おっ落ち着いて。私はクレア。新米ハンターのミケル君をサポートする為に龍歴

院から派遣されたの。』

ミケル『そうだったんですね。よろしくお願いします。』

クレア『よろしくね！ちなみに武器屋にはいった？』

ミケル『まだ行ってません。たしかこのすぐ近くにあるですよね。』

クレア『そうだよ。じゃあ行ってみようか。お金はいくら持つてる？』

ミケル『登録したときに渡された、5000zです。』

クレア『OK。ならばベルダー系の武器は買えるね。』

ミケル『そういえばどんな武器がいいんですか？』

クレア『そうだねー。リーチが長いベルダーサーベルがいいと思うな。』

ミケル『そうですか。わかりました。』

ミケル『すいません。これ下さい。』

店主『はいよ。お兄ちゃん新米かい？』

ミケル『はい。さつきハンター登録したばかりです。』

店主『そうかい。頑張つてな。2550zだよ。……。お釣りの2450zね。』

ミケル『ありがとうございます。これから頑張ります！』

初クエスト | 鬼蛙テツカブラ!!

クレア 『よし。それじゃあ記念すべき初クエストにいかがか。』

ミケル 『はい!.....。何のクエストに行きますか?』

クレア 『そうだなあー。おっ、あつたあつた。』

ミケル 『えつとー。鬼蛙テツカブラ?』

クレア 『そうだよー。』

ミケル 『鬼蛙テツカブラってどんなモンスターなんですか?』

クレア 『ん〜。でつかい蛙?まー実際にいけばわかるよ。』

ミケル 『.....。そうですか。わかりました。行きましようか。』

場所が変わって古代林へ昼

ミケル 『綺麗なところですね。』

クレア 『そうだよー。緑が綺麗でしょ。そろそろテツカブラがいると思うよ。』

??? 『ガオオーーー!!!』

ミケル 『なんだ!』

クレア 『あれがテツカブラだよ。』

ミケル 『……。蛙にしてはデカすぎないですか?』

クレア 『……。まー気にしないで。これよりデカいのもいるから。』

ミケル 『そうですか。』

クレア 『ほら。ポーっとしない。攻撃来るよ。』

ミケル 『おっと。危なかった……。なんだこの大岩は!』

クレア 『テツカブラの前にいると岩に潰されるよ。』

ミケル 『げっ、マジかよ。どうすりゃあいいんですか?』

クレア 『足か尻尾を狙うといいよ。』

ミケル 『わかりました。やってみます……。おおー。』

クレア 『そのまま攻撃して。って危ない!』

ミケル 『えっ……。うわッ!痛ってー。』

クレア 『テツカブラわ飛ぶから気をつけてね。』

ミケル 『なら先に言ってくださいよ!』

クレア 『ごめんね。お詫びに助太刀するね!』

戦うこと約2時間……。

ミケル『セイヤツ!』

テツカブラ『グアツーーー!!!』

クレア『ミケル君おめでとう! テツカブラ倒したよ!』

ミケル『本当?! 俺が!』

クレア『そう。お疲れ様。じゃあ?ぎ取りしよう。』

持つて帰れる量は限られているから、良さそうなところだけ取つてね。』

ミケル『わかりました。……。』

クレア『ふうー。これぐらいでいいかな。』

ミケル『そいえば残ったのはどうなるんですか?』

クレア『貴重なモンスターは龍暦院に運ばれるけど、大体は自然消滅だね。』

ミケル『そうですか。もったいないですね。』

クレア『確かにね、でも運ぶだけでも高額なZが掛かるから全部は運べないんだよ。』

……。そろそろ帰ろうか。』

ミケル『了解です。』

クレア『初クエストどうだったかな。疲れたでしょ。』

ミケル『はい、物凄く。でも倒した時の達成感が強かったです。』

クレア『そうだよ。私も最初はそう思ったな。これからも頑張ろうね!』

ミケル『もちろんです。・・・そういえばクレアさんが持ってた太刀は何ですか?』

クレア『あの時の太刀ね。あれはシミターアルナジトって言ってね、

セルレギオスっていうモンスターの太刀なんだよ。』

ミケル『知ってます! HR3のモンスターですよね!』

クレア『そうだよ。よく知ってるね。』

ミケル『自分の父親に話を聞いたことがあるので。』

そう言えばクレアさんのHRは何ですか?』

クレア『そうか、確かに言ってなかったね。私は今HR52なんだ。』

ミケル『そんなに高いんですか!!』

確かHR60になると受けられるようになるクエストってありませんでした

か?』

クレア『あるよ。内容はまだ知らないけどね。』

ミケル君が強くなったら一緒に行きこうね。』
クレア 『はい！頑張ります！』